

付、連記致した次第である。

## 6. 結 語 Conclusion.

扱、對日照の種々の變化の——月及年變化の問題は如何？ 或ひは太陽活動との相關は如何？ 更に大きく、空間上の位置に於ける對日照自體の状態は如何？ 尙又、諸種の環境條件に依る影響は如何？……此等重要問題解決への突進こそ、我等に課せられた大きな使命であり、且、最大の目的であらねばならぬ!!……夜半、深遠なる星空の一部より、“宇宙の眼”ともまがう、神秘的微光は、何等かの不可思議な意志力を以て我等が世界を凝視してゐる。我等も又、此の神秘光の正體暴明への挑戦の眼を怠つてはならぬ!

最後に、我等が行ひつゝある撓まざる長期連續眼視觀測が、これ等、究明への貢獻をなすべき事を念願しつつ擲筆する次第である。

(1941. 10. 6)

## 大 阪 プ ラ ネ タ リ ウ ム

昭和17年の天象館は下記の如き新對策を計畫して時局下の一般國民や青少年や學校の要望に備へることゝなつた。

○地球の恩人「ガリレイの300年祭」——近代科學の祖ガリレオ・ガリレイは1564年二月15日イタリアのピサに生れ1642年一月8日フロレンスに歿した。昭和17年は正に三百年を記念する歳である。茲に科學館はガリレイの偉業を一般人士の前に傳へるために三百年祭を記念して各種の立案を行ふことゝなつた。科學館では歳末より新年にかけて新規に正面玄關の裝飾窓へ先づガリレイの像を展出することゝなつた。これは月々に入換り街頭へ呼び掛ける豫定である。

○「ニュートン」の生誕三百年 ——ガリレイの逝いた同年十二月25日クリスマスの日アイザク・ニュートンが英國のウールストープに産聲をあげた。

○科學館・土曜講演の開催 ——天文に電氣に又廣く一般科學の分野に涉つて毎週土曜日午後、五階講義室で半専門的講演會を開き一般に開放する。講師は科學館の内外より選出招聘される。

○少國民「星の教室」(コドモ日曜朝の會)——科學する少國民たちこそ最も有望な未來の文明國民であらう。彼らのために天象館では毎週日曜朝9時半より約1時間は「少國民の時間」としてプラネタリウムの兒童用特別演出を行ふ。その話題は毎月始めに發表する。

○プラネタリウムの話題(一般用)

1月「地球とガリレイ」——ガリレイと地動説、地球の身體検査。

2月「歴史の夜空」——建國の空や日本歴史上の夜空(歳差現象)。

但し、以上の諸計畫は情況により「戦時の天文」その他として適宜變更されるかもしれない。(高城生)